

奥秩父 甲武信岳(2475m)より雁坂峠へ

2014年10月18日(土)～15日(日)

メンバー：磯部N(リーダー・記)、鈴木M、手塚

日本100名山に名を連ねる甲武信岳から東へ延びる奥秩父主脈縦走路上に日本三大峠の一つ雁坂峠がある。

今回は西沢渓谷から戸渡尾根を登って甲武信岳に立ち、主脈縦走路にある破風山、雁坂嶺を経て、雁坂峠へ至り、沢沿いに下りて西沢渓谷に戻る周遊コースで歩いてみた。

期待の紅葉は早いのか、遅いのかイマイチだったが、秋の冷気も感じながら、気持ちのいい稜線歩きを満喫できた。

10/18(土) 曇り時々晴れ

仮眠に使った道の駅・みとみは朝早くから歩き出す登山者が何人もいた。駐車場からは甲武信岳は見えないものの、明日歩く縦走路が雲の中に見えた。



道の駅から縦走路が見える

西沢溪谷の入り口から遊歩道に沿って2 kmほど歩くと、廃業した西沢山荘がある。その脇から徳ちゃん（甲武信小屋の主の名前）新道が始まる。初めはなだらかで優しい道だが、時折急登が出てくる、なかなか手強い登山道だ。しゃくなげが多いのとやたら倒木が多いのは奥秩父の特長だがぐったり、またいたりで何しろ気を使う道だった。紅葉はまだ完全では無いが、落葉している木もあり振り返れば広瀬ダムも見えた。



なかなか疲れる登山道



花崗岩帯で展望を楽しむ

木賊山直下まで疲れのたまる段差のある上りが長く続いたが、そこからは一挙に100mほど花崗岩のザラザラ道を下って甲武信小屋に着く。



花崗岩帯から、甲武信岳が目の前にそそり立って見えた



ヒカゲカズラの孢子囊の林立

テント場はすでに10張り以上、埋まっていた。すぐに場所を確保し、休憩。
山頂は、ガスって視界が効かないようなので、登頂は明日に持ち越す事にする。
夜はかなり冷え、風はあまり無かったが、テント内は結露して、ペットボトルの水が一部凍結。

<タイム> 道の駅・みとみ(6:40) – 西沢山荘(7:20) – 主稜線に合流(12:46) – 木賊山(12:55)
– 甲武信小屋(13:35)

10月19日 晴れ

5時起床。

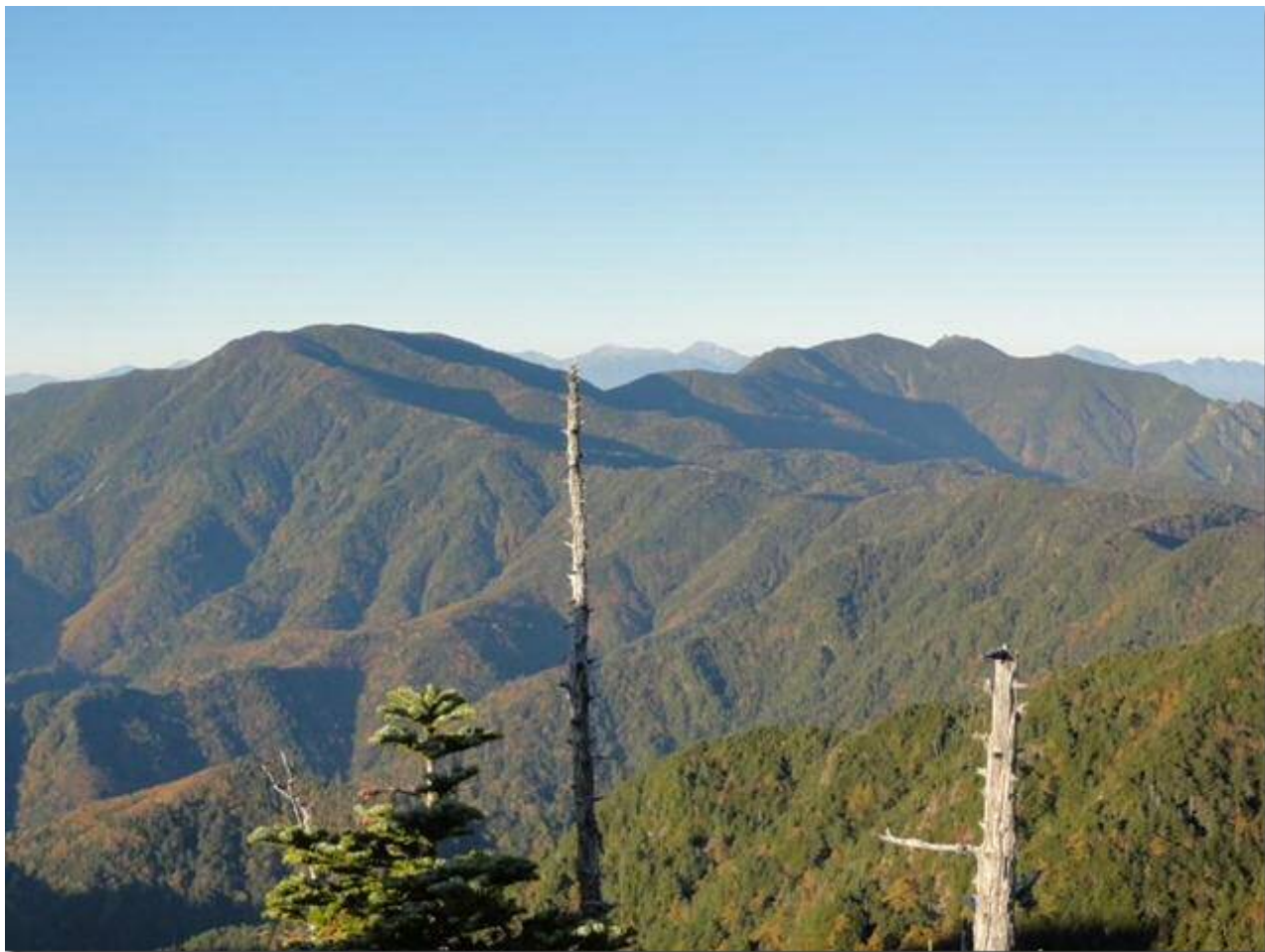


テント場の朝、既に出発した人も多い



朝日を浴びる甲武信小屋

食事を済ませ、空身で甲武信岳に登る。天気快晴で、小屋から20分あまりの上りも気持ちいい。富士山もばっちりみえた。山頂からは槍や北岳、甲斐駒、八ヶ岳などが大パノラマで広がっていた。御嶽の噴煙が見えたのにも驚いた。



甲武信岳山頂より国師ヶ岳、金峰山へと続く縦走路

小屋へ戻り、ばりばりのテントの氷を落とし、荷をまとめて縦走路へと歩き出す。木賊山をトラバースして、破風山避難小屋までなだらかに下る。足下には霜柱が。朝日の中で富士山を見ながらの、楽しい稜線歩きだ。白い立ち枯れの木の林立と美しい笹原と青空と、本当にきれいな光景が続く縦走路だ。



笹原と青空と白い木々

破風山避難小屋はまだ新しく、中に15人ほどは寝られそうな板間もあった。
ただ水場まで下りで20分かかるので、大変だ。夕べは3人、泊まったと聞いた。



破風山避難小屋と西破風山

小屋から破風山まで250mほどの一挙の登り。本日の一番の難所だ。
霜がついて滑りやすいごろごろ石の登山道で息が上がる。
西破風山、東破風山と越え、大きな花崗岩ののっこしも無くなり、雁坂嶺まで小さなアップを繰り返して、後は峠まで下り道だ。

たどり着いた雁坂峠は南に広大な草原を従えた実に気持ちの良い場所だ。
一休みしたのち、10分ほど下って、雁坂小屋をのぞいてみた。
こじんまりとした静かな小屋で、小屋主が本当に気さくな人だった。
トイレの真ん中を縦走路が通っているというユニークな特長のある小屋だ。

峠からはジグザグに切られた下山道を快調に下る。やがて、峠沢に沿う様になり美しい沢の流れを見ながら、二箇所ほどの渡渉も難なく越えて舗装された林道に出て、ひたすら下り、道の駅に戻った。

<タイム> 甲武信小屋(6:22)－甲武信岳(6:45～6:55)－甲武信小屋(7:05～7:25)－破風山避難小屋(8:55)－破風山(10:07)－雁坂峠(12:15～12:25)－雁坂小屋(12:37～12:55)－雁坂峠(13:25)－道の駅(15:53)

以上